

芭蕉研究論稿

集成

明治・大正・昭和前期篇 全5巻
久富 哲雄 監修 クレス出版



久富 哲雄 監修

芭蕉研究論稿集成

明治・大正・昭和前期篇 全5巻

●A5判/上製函入りクロス装
本文クリーム中性紙使用

●揃定価本体八〇、〇〇〇円(税別)
●一九九九年十二月刊

ISBN4-87733-077-1 C3392

クレス出版好評既刊書 (定価は税別)

蕪村研究資料集成

全17巻 久富哲雄・谷地快一監修・解題
日本・中国を問わず、古典に親しみ、俳諧に絵画に、自在なる境地を志向した蕪村の明治・大正期に刊行された基礎的研究資料を集成。
揃定価一八六、〇〇〇円

西鶴研究資料集成

全8巻 竹野静雄監修・解題
江戸時代の浮世草子作者・俳諧師井原西鶴の没後三百年を記念して、明治大正、昭和初期に発表された資料約四七〇点を纏めて刊行。
揃定価一三六、〇〇〇円

徳川三百年人物大鑑

全5巻 長田偶得編
徳川三百年間に於ける思想界に勢力のあった碩学鴻儒・文学者美術工芸家名僧・義人烈士等七十二名の伝記集。年譜・肖像画付。
揃定価七六、〇〇〇円

近世文芸研究叢書

全63巻 近世文芸研究叢書刊行会編・解説
近世文学・芸能に関する明治大正に刊行された名著稀書を復刊。

- 第一期文学篇全23巻 揃定価二九一、〇〇〇円
- 1、通史 全7巻 揃定価八〇、〇〇〇円
- 2、一般 全7巻 揃定価九六、〇〇〇円
- 3、作家 全9巻 揃定価一一五、〇〇〇円
- 第二期芸能篇全40巻 揃定価五五八、〇〇〇円
- 1、歌舞伎I 全10巻 揃定価一三五、〇〇〇円
- 2、歌舞伎II 全10巻 揃定価一三八、〇〇〇円
- 3、浄瑠璃 全10巻 揃定価一四五、〇〇〇円
- 4、舞踊・邦楽・諸芸・雑纂 全10巻 揃定価一四〇、〇〇〇円

若月保治浄瑠璃著作集

全7巻 秋本鈴史・和田修・林久美子・坂口弘之解説
浄瑠璃研究の第一人者若月保治の代表作を復刻。
1 近松人形浄瑠璃の研究 定価二二、〇〇〇円
2 人形浄瑠璃史研究 定価二五、〇〇〇円
3 近世初期国劇の研究 定価一三、〇〇〇円
4 古浄瑠璃の研究 全四巻揃定価九五、〇〇〇円

俚言集覧 自筆稿本版

全11巻 太田全斎編 ことわざ研究会監修・解題
江戸時代の代表的な三大国語辞書の一つ『俚言集覧』の唯一の稿本を『移山伊呂波集』とともに復刻。活字本にはない図像や刺記、書き込み等も多く、研究者に新たな資料を供与する。
揃定価一五〇、〇〇〇円

物語文学研究叢書

全26巻 神野藤昭夫監修・解題
明治から昭和三十年代までに刊行された、今後の物語研究に資する著作を、個々の物語を扱ったものと物語を広く扱ったものとに別けて刊行。
揃定価二二七、〇〇〇円

源氏物語研究叢書

全17巻 日向一雅監修・解題
明治から昭和二十年代までを中心として、源氏物語の主要な研究書を網羅。近代における研究史を顧みること、細分化し多様化した研究を統合。
揃定価一七五、〇〇〇円

既刊 芭蕉研究資料集成 昭和前期篇 全19巻 揃定価二七五、〇〇〇円(税別)

〈伝記・総記〉

- 1 俳人芭蕉傳 加藤 紫舟
- 2 芭蕉全傳 山崎 藤吉
- 3 芭蕉の全貌 萩原 蘿月
- 4 問題の點を芭蕉の傳記の研究は せ を 志田 義秀
- 5 俳人芭蕉の研究 菊山當年男
- 6 奥の細道・芭蕉・蕪村 鈴木 重雅
- 7 俳聖芭蕉 志田 義秀
- 8 芭蕉展望 野田別天樓
- 9 芭蕉翁雜考 志田 義秀
- 10 芭蕉論稿 大河 寥々

〈作品研究〉

- 1 七部集猿蓑評釋 新田 寛
- 2 猿蓑俳句鑑賞 伊藤 月草
- 3 芭蕉名句評釋 島田 青峰
- 4 芭蕉俳句鑑賞 川島 つゆ
- 5 芭蕉句集新講 上巻 服部 咄石
- 6 芭蕉句集新講 下巻 服部 咄石
- 7 芭蕉紀行全集 卷一、卷二 三村 鴻堂
- 8 芭蕉紀行全集 卷一、卷二 山崎 麓
- 9 奥の細道詳解 樋口 功
- 10 奥の細道評釋 志田 義秀
- 11 奥の細道「綜合研究」 頼原退藏他
- 12 奥の細道古註 萩原井泉水
- 13 庄内に於ける芭蕉 玄々堂芦汀
- 14 庄内に於ける芭蕉 玄々堂芦汀・鈴木秀夫
- 15 芭蕉と紀行文「芭蕉・世阿弥・頼傳・勘所収」 小宮 豊隆
- 16 芭蕉旅心 深山 文雄
- 17 増補おくのほそ道の基礎研究 飯野 哲二

『芭蕉研究論稿集成』刊行にあたって

鶴見大学名誉教授

久 富 哲 雄

曩に『芭蕉研究資料集成』と題して、芭蕉研究に関わる単行本を、明治篇九卷・大正篇十一卷・昭和前期篇十九卷にまとめて復刻公刊しました。明治より昭和二十年代の終りまでに出版された芭蕉研究書の主要なもので復刻可能な著作はほぼ網羅し得たように思います。

しかしながら、芭蕉研究に関する論稿は、雑誌に発表されたものが、後にすべて単行本に収載されるとは限りません。貴重な研究成果でありながら、時の経過とともに見ることの困難になって行く論稿も少なくありません。これらを発掘して集成するならば、前記『資料集成』と並ぶ研究文献集が出来るのではないかと考えた結果、『芭蕉研究論稿集成』という書名のもとに、雑誌所載論稿の集成を試みる事と致しました。



明治期のものから大正期を経て、第二次大戦後の混乱も治まって、芭蕉研究が新たな展開を示し始めたころ、すなわち井本農一・栗山理一・中村俊定の三氏編著『国語国文学研究史大成12芭蕉』（昭三四・12、三省堂）が出版されて、芭蕉研究史を概観することの出来るようになった昭和三十四年より少し前までに発表された雑誌掲載論稿を適当に選び出して纏めたのが本書であります。

芭蕉研究の論稿は実に幅広く、すべてが第一級の研究成果を挙げているわけではありませんから、玉石混淆の譏りは免れませんが、これも底辺の広い芭蕉研究の性格の一つの表われと言いうこともできましよう。

本書は、論稿の内容によって、

- 一、伝記・総記
- 二、発句・俳諧・俳論
- 三、俳文
- 四、日記
- 五、紀行
- 六、書簡

というふうに分類して収載致しました。

この六分類とは別に、芭蕉に関する特集号を、なるべく元のままの体裁で収録するように努めました。大正七年の『石楠』、同十年の『潮音』、同十三年の『にひはり』から昭和三十二年の『国文学解釈と鑑賞』（奥の細道）の正しい理解のために、『国文学解釈と教材の研究』（芭蕉の総合探究）まで、全三十二部が収録してありますから、芭蕉研究の進展の跡や当時の研究水準を容易にうかがい知ることができると思われます。

雑誌掲載論稿を集めた本書が、曩の『芭蕉研究資料集成』と同様に、今後の芭蕉研究に少しでも役立つと希求するものであります。

末筆乍ら、本書への収録を御快諾下さった執筆者各位に深謝の意を表します。